



プレスリリース

令和5年度草の根・人間の安全保障無償資金協力：

アラガツォトン州アパラン市診療所改修計画 供与式の実施

エレバン：令和8年3月13日

令和8年3月13日、草の根・人間の安全保障無償資金協力「アラガツォトン州アパラン市診療所改修計画」（供与限度額：87,182米ドル）の供与式が、アラガツ診療所（事業実施地）において開催されました。本式典には、青木豊駐アルメニア日本国大使、フライル・ムクルトゥチャン・アパラン副市長、ゲガン・グリゴリャン・アラガツ診療所所長のほか、医療関係者およびアパラン市民が出席しました。

本事業は、アパラン市に所在する3か所の診療所（アラガツ診療所、クチャク診療所、シェナヴァン診療所）を改修するとともに、暖房設備・上下水道設備および太陽光発電設備を整備することにより、年間約13,000人のアパラン市民が適切な医療サービスを衛生的な環境で享受できるようにするものです。対象診療所はいずれも築約50年で老朽化が進んでおり、雨漏りや隙間風のため悪天候時に休院を余儀なくされていたほか、暖房設備の不備により冬期の室温がマイナス20度まで低下するなど、患者・医療従事者双方に深刻な身体的負担が生じていました。また、一部診療所では上下水道が未整備であったため、手指や医療器具を清潔な水で洗浄することができず、衛生的な診療環境の確保が困難な状況にあり、改善が求められていました。

ムクルトゥチャン副市長は、「日本はアルメニアの医療分野に対し長年にわたり支援を提供してくださっています。このたびはアパラン市の医療サービス環境の改善にご支援いただいたことに、心より感謝しております。支援者である日本国民の皆さまへの感謝の気持ちを胸に、今後も質の高い医療サービスを提供できるよう市としてサポートしてまいります。」と謝意を述べました。青木大使は、「医療インフラの整備は、人間の安全保障と社会的な豊かさを支える根幹です。改修された診療所が地域住民の健康に永く貢献し、日本とアルメニアの友好と協力の象徴となることを願っています。」と祝辞を述べました。



関係者の集合写真



改修された診療所を見学する青木大使



改修された診療所



ODA プレート